

鎌田地区から平和への祈り

7月か
ら8月上
旬まで、
鎌田地区
公民館と
福祉ひろ
ば、西部
図書館、
鎌田児童
センターの4つの複合施設に
折鶴コーナーを設けて、地区
住民の皆さんや施設利用者に
千羽鶴づくりの協力をいただ
きました。自宅で折った鶴を
公民館に届けてくださる方も
いて、折鶴の総数は1500
を超え、大きな千羽鶴3つに
仕上げることができました。

■平和祈念式典で献呈
松本市の祈念式典は今年
で23回目、当日は市長はじめ
800人の市民が公園内の平



公民館ロビーの折鶴コーナー



左から 沖本悠真君、原口怜大君、後藤優希君

■みんなで折った千羽鶴
和祈念碑前に参列して行われ
ました。

式典では最初に、市内の全
小・中学校や各種団体からの
千羽鶴の献呈があり、鎌田地
区の千羽鶴は、鎌田小学校に
通う後藤優希君(5年)、沖
本悠真君(4年)、原口怜大君
(4年)の3人が献呈しまし

た。そのあと、広島の記念式
典に参加した中学生代表によ
る平和へのメッセージ発表や
参列者全員による平和合唱が
ありました。

式典後に原口君は「原爆の
恐ろしさを知って、戦争は嫌
だと思った」と話し、祖父母
が住む広島で平和記念資料館
も見学してきた沖本君は「人
を思いやる気持ちで大事」と
平和を願う決意を力強く語っ
てくれました。

■紙芝居で平和学習
鎌田地
区公民館
では8月
6日に紙
芝居「ぼ
くらは開
智国民学
校一年生」
を鑑賞す
る講座を開催しました。紙芝
居は、終戦の昭和20年に国民
学校へ入学した手塚英男さん
が、自身の体験を基に日常生
活のなかにも入りこんだ戦争
の影を描いたお話で、夏休み
中の小学生はじめ約30人が熱
心に聞き入りました。千羽鶴
の献呈もした後藤君は「戦争
中の話を詳しく聞いたのは初
め。平和の大切さが分かつ
た」と感想を述べていました。



紙芝居「ぼくらは開智国民学校一年生」

鎌田中学校吹奏楽部
(部員54人)が、県代表
として東海大会で最優秀
賞に輝き、10月20日に開
催される「全日本吹奏楽
コンクール」に出場しま
す。同校の全国大会への
出場は13年ぶりです。

なお、10月27日には鎌
田地区3校(鎌田小・鎌
田中・信明中)の金管バン
ド・吹奏楽部が出演する
「ジョイントコンサート」
を今年も西部体育館で開



催します。地元の児童・
生徒たちの演奏をお楽し
みください。

鎌田中学吹奏楽部も全国大会へ出場

鎌田サッカースポーツ
少年団が北陸信越大会を
勝ち抜いて、9月に大阪
で開かれた「U-11少年
少女サッカー全国大会」
に初出場し、全国4位と
なりました。

団員は63人。うち61人
は鎌田小学校の児童で、
ふだんは鎌田小と鎌田中
の校庭で練習しています。
監督の渡辺俊治さん(井
川城中区)は「向上心と
負けん気の強さがチーム
カラー」と語っています。



鎌田地区から将来のJリ
ーガーが誕生することを
期待して、地元の子ども
たちの活躍を今後も応援
しましょう。

かまだ

揮毫 伊藤茂男氏

鎌田地区
平成30年9月1日現在
世帯数 8,967戸
男 9,971人
女 9,591人
発行者 鎌田地区公民館
公民館報編集委員会

松本市平和祈念式典で千羽鶴を献呈

8月15日に「松本市平和祈念式典」があがたの森公園で開催さ
れました。今年初めて鎌田地区の皆さんが折った大きな千羽鶴
を、地区を代表して3人の小学生が献呈しました。

鎌田地区の歴史③

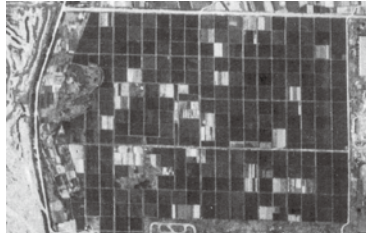
笹部南原地域の移り変わり
——南原町の誕生まで——

現在、南原や石芝となつてい
る「笹部南原」と呼ばれる地域
は奈良井川の氾濫によつて形成
された土地で、土質の悪いところ
は荒地や桑畑、良いところには
畑が広がり、良質な長芋などが
生産されてきました。

太平洋戦争が始まり戦局が悪
化すると、米軍の空襲を避けて
軍用機部品を製造する工場の疎
開用地として、この地帯が軍に
よる強制買上げとなり、現在
のIH1アグリテックと自衛隊の
区域に石川島芝浦タービンが入
りました。

のこぎり屋根が並ぶ工場から
は連日金属音が響き、工場の南
側には社宅が立ち並び、のちに
一帯は会社名から「文字をとつて
石芝町」となります。南原町の区
域では志願者が工場の管理のも
とで野菜を栽培し、工場に納入
していたそうです。

戦後となり、工場
は石川島芝浦機械と
社名を変え、広い敷
地の東と南は自衛隊
の用地となります。
南原町の区域は農地
解放により返還され、
米の増産のために設
立された開田組合が、



町会発足前(昭和34年頃)の南原地籍



現在の南原町周辺

水路と道路によつて整然と区画
された水田を整備しました。
水利権の問題などで奈良井
川から取水ができず、深さ8m
の井戸を6本掘り、電動ポンプ
で汲み上げて配水しました。公
平に効率よく配水するため、井
戸ごとに当番制を敷いて管理を
したそうです。
その後、米余りや農家の後継
者不足などがあり、昭和37年頃
から宅地化が始まりました。個々
に売買されたにもかかわらず整
然とした街並みになっているの
は、この水田の区割りがベースに
なっているためです。次第に住宅
が増え、昭和44年に南原町会が
誕生しました。前後して周辺に
月見町・五月町・弥生町もでき、
この一帯は大住宅地となりました。
※参照：南原町誌「南原三十年のあゆみ」
協力：赤羽豊実さん(笹部町会)

公民館委員会の活動報告

文化委員会

初めての取り組みとし
て、伝統野菜「松本一本ね
ぎ」の苗植えから収穫、料
理までを体験する全6回
の食育講座を参加者10名
で始めました。

講座の最初に両島の生
産農家の方から、一本ね
ぎは甘さと曲がり特徴
で真夏に「植え替え」が
欠かせないことなどを教
わり、8月には参加者が
くわやすきを使って畝を
.....



(林 清吉)

4本作り堆肥の油かすを
撒いてから等間隔に植え
替えをしました。
11月には大きく育った
ねぎを収穫して味わう喜
びが待ち遠しいです。
(林 清吉)

図書・視聴覚委員会

図書館や美術館などの
バス講座を毎年行つてい
ます。

今年はいわさきちひ
ろ生誕100年信州での
足跡を訪ねる」と題し、
8月24日に事前学習を兼
ねた特別講座、9月5日
には「安曇野ちひろ美術
館」やゆかりの地などを
巡りました。特別講座で
は、絵本評論家の松本猛
さんから作品の技法的な
特徴やちひろの息子さん
ならではのお話があり、

とても楽しく講演を聞く
ことができました。
ちひろ美術館を何度も
訪れたことがある方でも、
松本さんと学芸員のお話
をお聞きしてからでは、
また違った感慨があり、
新たな発見もあったと思
います。
(中田 美千)



雑感

「墨を重ねていくと
いうことにも、歳月
や風霜を経る意味が
込められる」「体は衰
えるが精神は衰えな
い。老いて初めて得
られるものもある」▼『百歳
の力』の著書で話題になった
篠田桃紅さんは現在105歳。
書家から「水墨抽象画」とい
う独自の手法を確立し、今な
お日々新たな作品に挑み続け
ている▼上田市立美術館の特
別展「とどめ得ぬもの 墨のい
ろ」この「かたち」を観た。
会場全体がすっきりと清々し
い。展示作品に標題は付けら
れていない▼移ろいゆく自然
や人の生など、見えないもの
が和紙に墨の濃淡と多様な線
で「かたち」として表現され
ている。簡潔に構成された画
面は筆あとや広い空間と相ま
つて、凛として豊かで日本的
な美しさに感動した▼同時期、
松本市美術館では鎌田地区中
条出身の前衛芸術家「草間彌
生 私心の愛のすべて」の特別
展で沸いていた。高齢であつ
ても、旺盛な創作活動を続け
る強靱な精神力は2人に共通
している▼2つの展覧会は確
実に老いていく自分の今後の
生き方を深く考えさせられる
ものだった。
(南雲多采子)